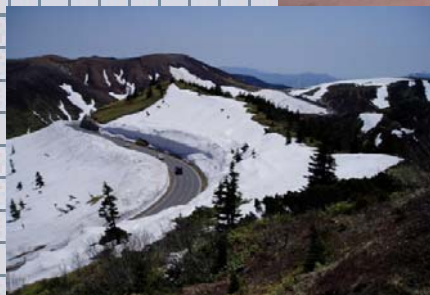


# ぐんまの道づくり



## 平成17年度 業績計画書



群馬県道路協議会

# 目 次

1. アウトカム・プランの策定について・・・ 1

2. 政策方針と成果指標の設定・・・・・・・・・・ 2

3. 成果指標による業績の評価・・・・・・・・・・ 3

4. 交通事故の削減・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

5. 医療・福祉の向上・・・・・・・・・・・・・・ 6

6. 渋滞の解消・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

7. 自転車走行空間の確保・・・・・・・・・・・・ 14

8. 産業・観光の振興・・・・・・・・・・・・・・ 16

9. 情報の公開・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

# 1. アウトカム・プランの策定について

## 地域における道路行政マネジメントの確立に向けて

### 新たな道路行政への転換

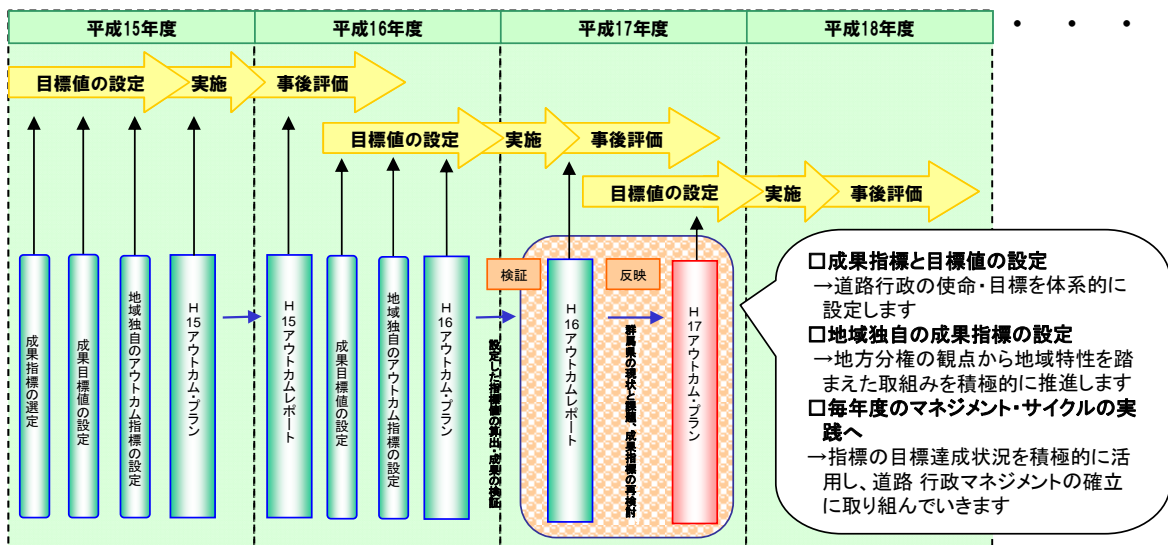
- 道路行政では、他の行政分野、公共事業分野に先駆けて、成果主義の行政マネジメントを推進しています。
- 群馬県においても、平成15年度より、目指すべき成果を事前に宣言した「平成15年度ぐんまの道づくり アウトカム・プラン」を発表し、成果主義の道路マネジメントを開始しています。

### 成果主義の道路行政マネジメントの二巡目を実施

- 昨年度(平成16年度)は、事前に数値目標を明確に打ち出し、事後に達成度を検証し、評価結果を次年度の行政運営に反映するという「マネジメント・サイクル」が一巡した年度です。
- 今年度(平成17年度)は、「マネジメント・サイクル」が二巡目を迎え、より透明性、客観性の高い効果的、効率的な施策、事業の展開を図ると共に、より一層県民の皆様の生活実感にあう道路行政の実現に向けた取り組みを進めています。

### 平成17年度アウトカム・プラン」の策定

- 群馬県では、県民の皆様の生活実感にあう道路行政への転換を目指し、地域の特性や課題、ニーズを踏まえて選定した成果指標に基づく「平成17年度アウトカム・プラン」を策定しました。ポイントは以下の3点です。
- ①年度当初に成果指標の現況値および事業に伴う年度末の目標値を提示
- ②実施する施策・事業の内容および期待される成果を詳細に検証
- ③これまでの反省を今年度に活かす枠組み(マネジメント・サイクル)の導入



## 2. 政策方針と成果指標の設定

### ◆ 4つの方針と指標の選定 ◆

「平成16年度アウトカム・プラン」では、群馬県の道路行政が目指すべき成果を表す指標として、施策の特性に応じた10指標を設定し、4つの施策方針（政策課題）に応じて分類した上で、社会的背景（群馬県の課題など）や施策の必要性、平成16年度に実施される事業、およびそれに伴い改善が期待される指標の現況値・目標値を県民の皆様へ提示しました。

平成17年度の道路行政の推進にあたっては、平成16年度アウトカム・レポートを踏まえ、めざす成果の数値目標達成に向けて事業に取り組んでいきます。

方針	群馬県の課題	平成16年度成果指標
県民の暮らしを守り、安心して暮らしを実現する道路整備	交通事故の削減	あんしん歩行エリアの整備
		事故危険箇所の解消
		死傷事故率の減少
環境を保全し、豊かな生活を支援する道路整備	医療・福祉の向上	総合病院30分到達 カバー圏域の拡大
	渋滞の解消	渋滞損失時間の削減 渋滞箇所の解消
	自転車走行空間の確保	サイクリングロード整備率
地域の自立と個性を守る道路整備	産業・観光の振興	幹線交通30分乗り入れ圏域の拡大
		規格の高い道路の利用の向上
情報の公開		ホームページアクセス数

事業の実施による成果指標値の改善状況の把握・検証と課題の整理  
:「平成16年度アウトカム・レポート」

平成17年度の群馬県の道路行政への取り組み:「平成17年度アウトカム・プラン」

### 3. 成果指標による業績の評価

群馬県の現状から見た課題に対して必要な取り組みを進める場合、どのような成果が県民の皆様にとってわかりやすい指標になるかを考慮し、以下の成果指標を設定しました。

方針	課題	成果指標(単位)	対象路線・範囲	H16現況値	H17目標値	対応ページ
県民の暮らしを実現する道路整備	交通事故の削減	あんしん歩行エリアの整備[箇所]	直轄国道 一般国道 県道 市町村道	16箇所	あんしん歩行エリアに指定された16箇所の整備により、平成19年までにエリア内の死傷事故件数の2割削減をめざす	4
		歩行者及び自転車の安全な通行を確保する「あんしん歩行エリア」の整備とそれに伴う死傷事故の削減を成果とします。				
		事故危険箇所の解消[箇所]	直轄国道 一般国道 県道	174箇所	事故危険箇所に指定された174箇所の解消により、平成19年までに事故危険箇所内の死傷事故件数の3割削減をめざす	4
	死傷事故が多発する「事故危険箇所」の解消とそれに伴う死傷事故の削減を成果とします。					
	死傷事故率の減少[件/億台キロ]	高速道路 直轄国道 一般国道 県道	143.4件/億台キロ	死傷事故率の削減をめざす	4	
	1万台の自動車が1万km走行した場合に発生する死傷事故件数の減少を成果とします。					
医療・福祉の向上	総合病院30分到達カバー圏域の拡大[%]	総合病院に30分以内で到達できるエリア(可住地面積に対する割合)の拡大を成果とします。	高速道路 直轄国道 一般国道 県道	83.4%	83.6%に向上させ、約1,000人を新たに到達可能とする	6
生活を支える道路整備	渋滞の解消	渋滞損失時間の削減[万時間/年]	高速道路 直轄国道 一般国道 県道	未整備の渋滞箇所16箇所において1,222.5万時間/年	平成16年度よりも2.6万時間/年削減	9
		渋滞対策プログラムで位置付けられた渋滞箇所(未整備箇所)において、渋滞によって失われてしまう時間の削減を成果とします。				
	渋滞箇所の解消[箇所]	高速道路 直轄国道 一般国道 県道	16箇所	平成16年度よりも1箇所削減	9	
	サイクリングロード整備率[%]	サイクリングロード整備計画のうち、実際に整備された割合の向上を成果とします。	サイクリングロードネットワーク計画の対象路線	50.3%	平成18年までに概ね完成(平成16年度実績値:54.7%)	14
地域の自立と個性を守る道路整備	産業・観光の振興	幹線交通30分乗り入れ圏域の拡大[%]	高速道路 直轄国道 一般国道 県道	81.2%	上信自動車道や北関東自動車道およびインターチェンジのアクセス道の整備により将来的には100%をめざす	16
		新幹線駅または高速道路などのインターチェンジまで30分で到達可能な市町村数の増加を成果とします。				
	規格の高い道路の利用の向上[%]	目的地により早く、確実に到達できる規格の高い道路が利用される割合の向上を成果とします。	高速道路 直轄国道 一般国道 県道 市町村道	10.0%	北関東自動車道の整備促進により大幅な向上をめざす	16
情報の公開	情報の公開	ホームページアクセス数[件/年]	全国	507,423件/年	前年度の2割増約600,000件/年	21
		国土交通省高崎河川国道事務所、群馬県道路関係課のホームページへのアクセス数の増加を成果とします。				

## 4. 交通事故の削減



### あんしん歩行エリアの整備[箇所]

あんしん歩行エリアに指定された16箇所のうち、平成16年度までに事業に着手している8箇所に加え、平成17年度は新たに3箇所ですべて事業に着手し、合計11箇所ですべて事業に着手し、平成19年度までにあんしん歩行エリア内における死傷事故件数の2割削減をめざします。

平成16年度現況値：エリア内での死傷事故件数2割削減に向けて事業継続中  
平成17年度目標値：事業継続

### 事故危険箇所の解消[箇所]

平成17年度は、事故危険箇所174箇所のうち、154箇所ですべて事業に着手し、111箇所の対策を完了、39箇所の対策を一部完了とし、平成19年度までに事故危険箇所での死傷事故件数の3割削減をめざします。

平成16年度現況値：対象箇所での死傷事故件数3割削減に向けて事業継続中  
平成17年度目標値：事業継続

### 死傷事故率の減少[件/億台キロ]

あんしん歩行エリアや事故危険箇所など、事故の多発する地点で交通安全対策を重点的に実施し、死傷事故率の減少をめざします。

平成16年度現況値：143.4件/億台キロ  
平成17年度目標値：事故率の削減をめざす

### 課題

- ・近年、群馬県では、死傷事故率やその増加率共に全国的にも上位に位置しており、早急な交通安全対策を実施しているものの、平成16年度の死傷事故率はなお増加していました。
- ・死傷事故率の増加の内訳を見ると、高速道路などの自動車専用道路においては死傷事故率、交通事故致死率共に減少しているものの、幹線道路や生活道路においては死傷事故率、交通事故致死率共に増加していました。
- ・交通事故対策による一定の成果がみられるものの、幹線道路や生活道路では十分な効果が発現していない状態にあります。

### 業績計画

#### ○あんしん歩行エリアの整備

- ・生活道路における交通事故対策として、平成16年度に引き続き、あんしん歩行エリアの整備を推進します。
- ・平成17年度は、新たに3箇所の事業に着手し、11箇所のあんしん歩行エリアにおいて、歩行空間や信号機、交差点の改良や歩行者・自転車を優先するゾーンの形成を進めます。

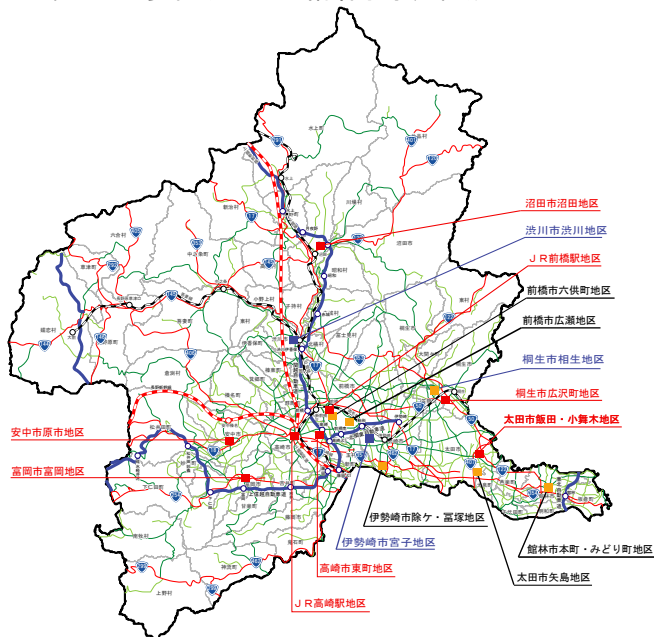
全箇所	着手予定箇所	予定着手率
16	11	69%

#### ○あんしん歩行エリアの整備計画

地区名	主な対策
JR前橋駅(北口・南口)地区	歩道、コミュニティ道路の整備
前橋市広瀬地区	歩道、コミュニティ道路の整備
前橋市六供町地区	歩道、コミュニティ道路の整備
JR高崎駅(東口・西口)地区	歩道、駐輪施設の整備
高崎市東町地区	通学路、バリアフリー整備
渋川市渋川地区	通学路、バリアフリー整備
富岡市富岡地区	歩道整備、電線類地中化
安中市原市地区	幹線道路の対策
沼田市沼田地区	歩道、コミュニティ道路の整備
伊勢崎市宮子地区	歩道の段差・勾配の解消
伊勢崎市除ヶ・富塚地区	歩道の段差・勾配の解消
太田市飯田・小舞木地区	歩道、コミュニティ道路の整備
太田市矢島地区	歩道、コミュニティ道路の整備
桐生市相生地区	歩道、コミュニティ道路の整備
桐生市広沢町地区	歩道、コミュニティ道路の整備
館林市本町・緑町地区	歩道整備、電線類地中化
	平成16年度までに整備着手
	平成17年度整備着手予定

## 交通事故の削減

### ○あんしん歩行エリアの整備着手予定箇所



注) 赤字は平成16年度までに整備を開始した箇所  
青字は平成17年度に整備着手予定の箇所

### ■あんしん歩行エリアの事業予定箇所

#### 【高崎市東町地区】



路肩の段差を解消し、歩行空間を拡大すると共に、カラー舗装により、自転車の通行帯を明示する事業を実施予定

#### 【安中市原市地区】



歩道の段差、波うちを解消する事業を実施予定

### ○事故危険箇所の整備

・幹線道路や生活道路の交通事故対策として、事故危険箇所において、交差点の改良、右折車線や道路照明の設置、道路標識や歩道の整備など、面的かつ総合的な死傷事故対策を講じています。

・平成17年度は、事故危険箇所174箇所のうち、154箇所ですべてに着手し、111箇所の対策を完了、39箇所の対策を一部完了とする予定です。

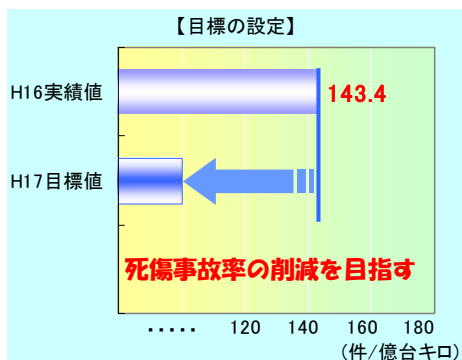
### ○事故危険箇所の整備計画

	箇所数			全体			単路			交差点		
	全体	単路	交差点	着手箇所	一部完了	完了	着手箇所	一部完了	完了	着手箇所	一部完了	完了
国の管理区間	27	11	16	26	16	6	11	8	1	15	8	5
都道府県・政令市の管理区間	147	60	87	128	23	105	56	9	47	72	14	58
合計	174	71	103	154	39	111	67	17	48	87	22	63

	全箇所	着手予定箇所	予定着手率
国の管理区間	27	26	96%
都道府県・政令市の管理区間	147	128	87%

### ○交通事故死傷率

・引き続き、あんしん歩行エリアや事故危険箇所など、事故の多発する地点で交通安全対策を重点的に進め、死傷事故率減少を目指します。



### ■事故危険箇所の事業予定箇所

#### 【国道254号甘楽町】

注意喚起の路面標示を敷設予定



#### 【国道122号桐生市相生町】

注意喚起の路面標示を敷設予定



県民の暮らしを守り、安心した暮らしを実現する道路整備

# 5. 医療・福祉の向上



## 総合病院30分到達カバー圏域の拡大[%]

総合病院に30分以内で到達できるエリア（可住地面積に対する割合）を拡大させ（83.4%→83.6%）、新たに約1,000人の方を総合病院に30分以内で到達可能とします。

平成16年度現況値：83.4%

平成17年度目標値：83.6%（平成16年度よりも0.2%拡大）

### 課題

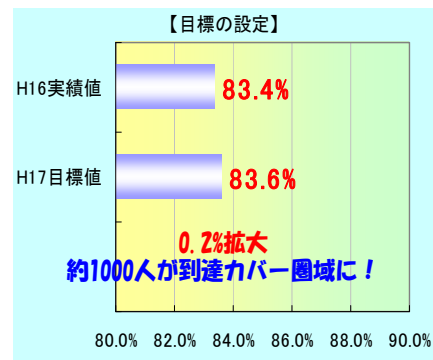
- ・平成16年度は、総合病院30分到達カバー圏域の拡大をめざして事業を推進してきたものの、供用予定であった（主）中之条湯河原線の須川バイパスが完成供用しなかったため、総合病院30分到達カバー圏域は拡大しませんでした。
- ・山間部を中心とした約2割の地域でも水準の高い医療サービスを楽しむことができ、県民の暮らしを守り、安心した暮らしを実現する道路整備を進める必要があります。

### 業績計画

- ・平成17年度は、（主）中之条湯河原線の須川バイパスを完成供用することで、総合病院に30分以内で到達できるエリアを83.4%から83.6%に拡大します。
- ・さらに、平成19年度までには、以下の路線の整備に取り組み、8市町村において総合病院30分到達カバー圏域を拡大することを目標とします。

○総合病院30分到達カバー圏域を拡大する主な事業

路線名	事業の内容	「総合病院30分到達カバー圏」が拡大する市町村
(一) 苗ヶ島飯土井線	新規路線の整備（前橋市）	前橋市・新里村
(主) 中之条湯河原線	須川バイパス整備（新治村）	新治村
(一) 林長野原線	バイパス整備（長野原町）	長野原町・吾妻町
(一) 林吾妻線	バイパス整備（長野原町～吾妻町）	長野原町・吾妻町



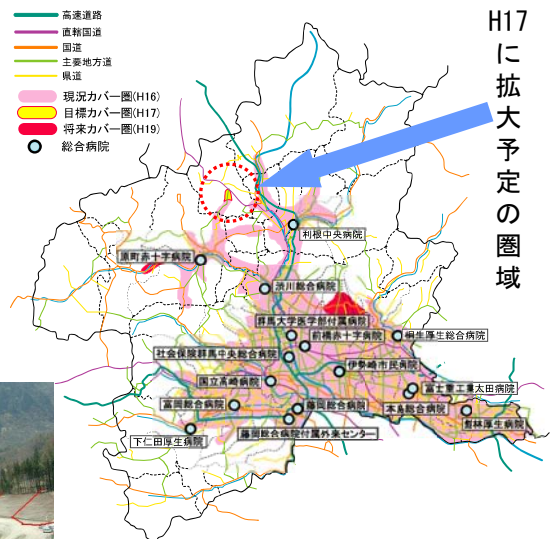
【林吾妻線の整備状況】



【林長野原線の整備状況】



○総合病院30分到達カバー圏域



県民の暮らしを守り、安心した暮らしを実現する道路整備



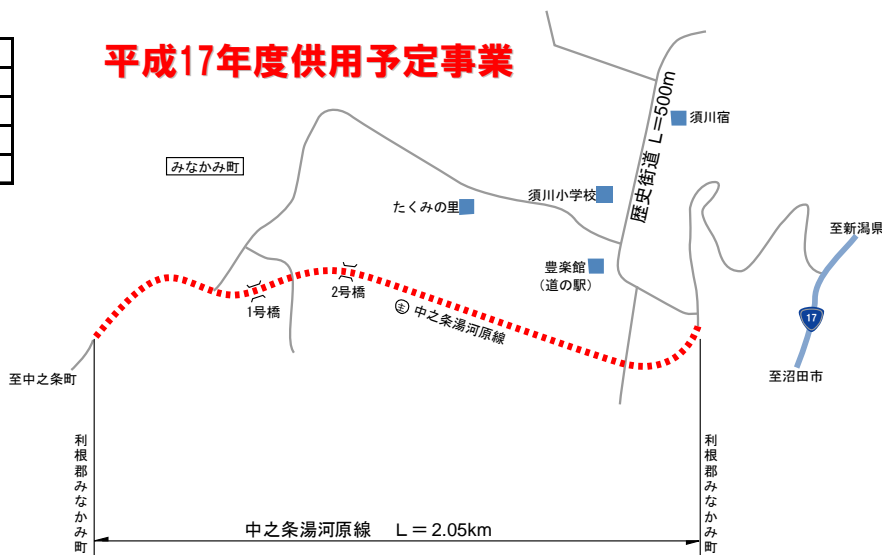
総合病院30分到達カバー圏域を拡大する主な事業①

■ (主) 中之条湯河原線

区 間	利根郡新治村須川
延 長	2.05km
幅 員	6.0(11.0)m
区 分	第3種第4級(2車線)
設 計 速 度	40km/h

・現道は幅員が狭く線形不良により交通に支障をきたしているため、現道を迂回するバイパスを整備するものです。村の事業として計画されている「歴史国道」三国道須川宿整備として観光拠点の開発を支援し、施設の利便性の向上、伝統・文化と観光が調和した地域づくりに貢献する路線です。

平成17年度供用予定事業



【整備前の現道】

【整備中のバイパス】



■ (一) 苗ヶ島飯土井線

箇 所 名	前橋市鼻毛石町
延 長	1.7km
幅 員	6.0(16.0)m
区 分	第3種第3級(2車線)
設 計 速 度	50km/h

・苗ヶ島飯土井線は、前橋市苗ヶ島町から前橋市飯土井町に至る道路です。赤城南面地域と上武国道及び国道50号を結び拠点開発支援道路であり、赤城南面地域における観光事業の発展に寄与する道路として整備を行います。

・平成16年度末で、用地取得率98%、工事進捗率80%となっており、平成17年度は、新たに用地を取得し、さらなる改良工事を進めます。

【整備状況】



県民の暮らしを守り、安心した暮らしを実現する道路整備

## 総合病院30分到達カバー圏域を拡大する主な事業②

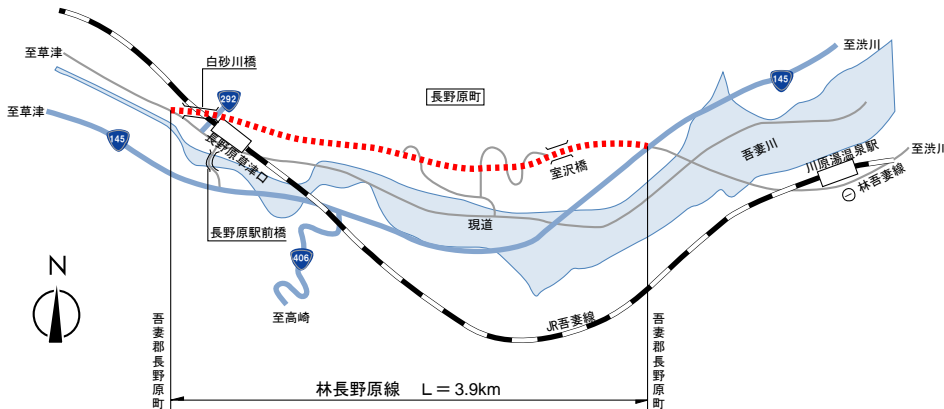
### ■ (一) 林長野原線

区間	自:長野原町林 至:長野原町長野原
延長	3.9km
幅員	6.0(13.5)m
区分	第3種第3級(2車線)
設計速度	40km/h

・林長野原線は、ハッ場ダム建設に伴う水没者の代替地である「林地区」および「長野原地区」を相互に結び、生活再建や地域振興を担う重要な路線です。また、この路線が、国道145号ハッ場バイパス・一般県道林吾妻線と接続することにより、代替地全体の道路網が形成されます。

・平成16年度末で、用地取得率46%、工事進捗率49%となっており、平成17年度は新たな用地取得を進めます。

【整備状況】



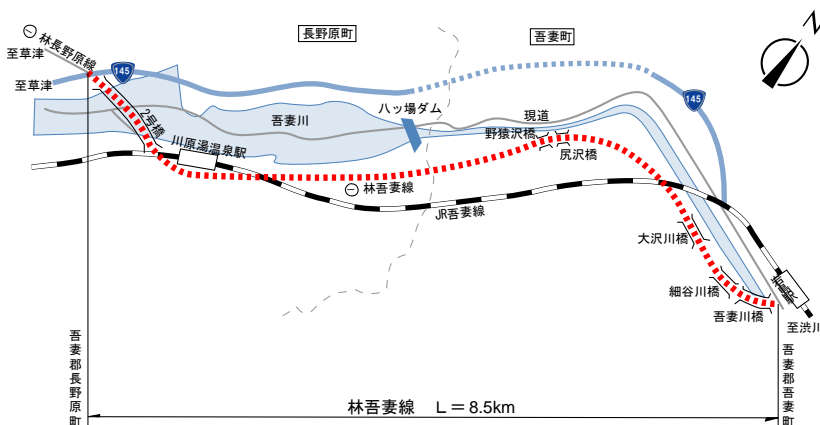
### ■ (一) 林吾妻線

区間	自:長野原町林 至:吾妻町岩下
延長	8.5km
幅員	6.0(13.5)m
区分	第3種第3級(2車線)
設計速度	40km/h

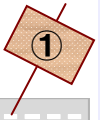
・本路線は、ハッ場ダム建設に伴う吾妻川右岸の付け替え道路として計画され、長野原の「地域居住計画」に基づき、ダム建設による水没者の生活再建の場となる代替地「林地区」「川原湯地区」「三島地区」を相互に結び生活道路として整備を行っています。

・平成16年度末で、用地取得率4%、工事進捗率30%となっており、平成17年度は新たに用地を取得し、橋梁上部・下部工事、改良工事などを進めます。

【整備前の現道】



# 6. 渋滞の解消



## 渋滞損失時間の削減[万時間/年]

金井南交差点（渋川市金井）での渋滞損失時間を2.6万時間/年削減し、渋滞対策プログラムで位置付けられた渋滞箇所（未整備箇所）における渋滞損失時間を1,222.5万時間/年から1,219.8万時間/年へと削減することをめざします。

平成16年度現況値：未整備の渋滞箇所16箇所において1,222.5万時間/年

平成17年度目標値：平成16年度よりも2.6万時間/年削減

## 渋滞箇所の解消[箇所]

（都）中村上郷線の整備により、金井南交差点（渋川市金井）で渋滞の解消をめざします。

平成16年度現況値：16箇所

平成17年度目標値：平成16年度よりも1箇所削減

## 課題

- ・近年、直轄国道の渋滞損失時間は減少傾向ですが、延長当たりでは補助国道・主要県道の約3倍にものぼっており、中長期的な抜本的な渋滞対策の実施が望まれています。
- ・また、渋滞損失時間の6割以上が都市部において発生しており、特に、上位の3都市は増加傾向にあります。

## 業績計画

- ・群馬県内60箇所の渋滞箇所のうち、平成16年度までの渋滞箇所の整備により、未整備箇所は16箇所となりました。
- ・平成17年度は、（都）中村上郷線の整備により、金井南交差点（渋川市金井）で渋滞解消を図り、渋滞損失時間を2.6万時間/年削減し、渋滞箇所（未整備箇所）における渋滞損失時間を1,222.5万時間/年から1,219.8万時間/年へと削減することをめざします。

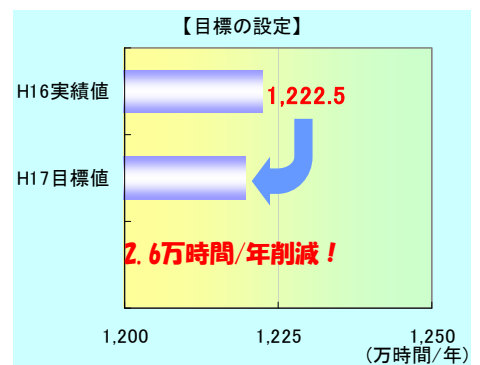
	H14末	H15末	H16末	H17予定
対策事業完了箇所	19箇所	20箇所	21箇所	22箇所
対策事業一部完了箇所	20箇所	21箇所	23箇所	23箇所
未整備箇所	21箇所	19箇所	16箇所	15箇所

## ○平成17年度に実施予定の主な対策事業

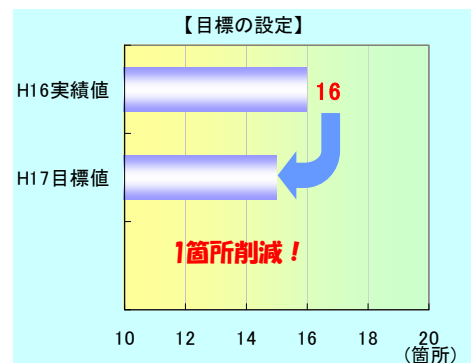
主要渋滞ポイント	道路名	対策事業
高松町交差点	(国)17号	聖石橋架替(高崎駅観音山線)、(国)17号高松立体、(国)354号伊勢崎街道踏切除去、(主)高崎渋川線4車化踏切除去
若松交差点	(国)17号	聖石橋架替(高崎駅観音山線)、(国)17号高松立体
鹿交差点	(国)50号	(国)50号(前橋笠懸道路)、北関東自動車道(伊勢崎以東)
浜川交差点	(主)前橋安中富岡線	(一)箕郷板鼻線箕郷バイパス整備
川内交差点	(国)254号	(国)254号バイパス整備
高林交差点	(国)354号	(国)354号バイパス整備(大泉邑楽)、(国)354号(太田バイパス)、(都)小舞木奇木戸線、(一)太田大泉線バイパス整備(東毛幹線(大泉工区))、(一)太田熊谷線バイパス整備(東毛幹線(太田工区))
金井南交差点	(主)渋川吾妻線	(都)中村上郷線
駒形町交差点	(主)前橋館林線	(主)前橋館林線拡幅(下大島駒形線)
三俣交差点	(主)前橋大間々桐生線	(国)17号上武道路(埼玉群馬県境~(主)前橋大間々桐生線)、(国)17号上武道路((主)前橋大間々桐生線~(国)17
小相木交差点	(主)前橋長湊線	(都)新前橋駅川曲線4車化
末広町交差点	(主)高崎駒形線	(主)高崎渋川線4車化踏切除去
運雀町交差点	(主)高崎停車場線	(主)高崎渋川線4車化踏切除去
東本町十字路交差点	(国)407号	(一)太田大泉線バイパス整備(東毛幹線(大泉工区))、太田駅周辺東武鉄道連続立体
横町交差点	(国)354号	(一)太田大泉線バイパス整備(東毛幹線(大泉工区))
北群馬橋交差点	(国)353号	(国)353号鯉沢バイパス整備
糸井橋		関越自動車道 糸井橋部付加車線設置(上り線)

平成17年度に完了予定の事業

## ○渋滞損失時間の削減の目標設定



## ○渋滞箇所の解消の目標設定



## 平成17年度供用予定事業

### ◇ 渋川市金井南交差点への対策

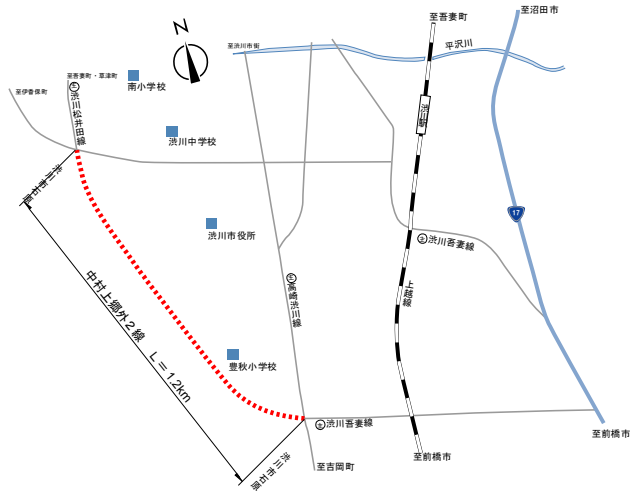
#### ■ (都) 中村上郷線

事業箇所	渋川市大字石原
供用延長	1,240m
幅員	27.0m(4車線、歩道3m@2)
事業期間	平成5年度～平成17年度

#### 【整備状況】



- ・ 渋川市街地周辺道路の混雑緩和、伊香保・吾妻方面へのアクセス道路として(都)中村上郷線の整備を進めています。
- ・ これまで工事の進捗に合わせ暫定的に部分供用を実施していますが、平成17年度は残る300mの事業を進め、全線(1,240m)を4車線で供用し、渋川市街地の混雑緩和をめざします。

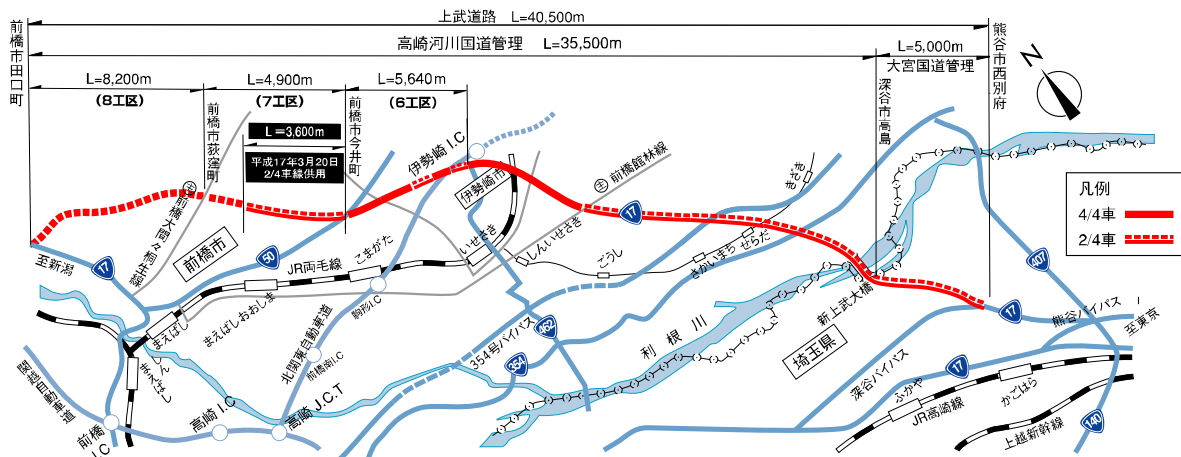


## その他の渋滞対策に向けた取り組み①

### ■ 国道17号上武道路

区間	自: 埼玉県熊谷市西別府 至: 群馬県前橋市田口町
延長	40.5km
区分	第3種第1級
設計速度	80km/h
都市計画決定	1) 昭和46年3月 2) 昭和58年4月 3) 昭和61年8月 4) 平成元年2月

- ・ 国道17号上武道路は、東京～前橋間の大規模バイパスの一環として、国道17号現道の渋滞解消と地域の活性化を図るために計画された埼玉県熊谷市から群馬県前橋市に至る延長40.5kmの大規模バイパスです。
- ・ 平成17年度は6工区の4車線化工事を進め、完了する予定です。また、7工区では残る区間の道路改良及び橋梁工事を実施予定です。8工区は道路設計をすすめるとともに、一部用地買収に着手予定です。



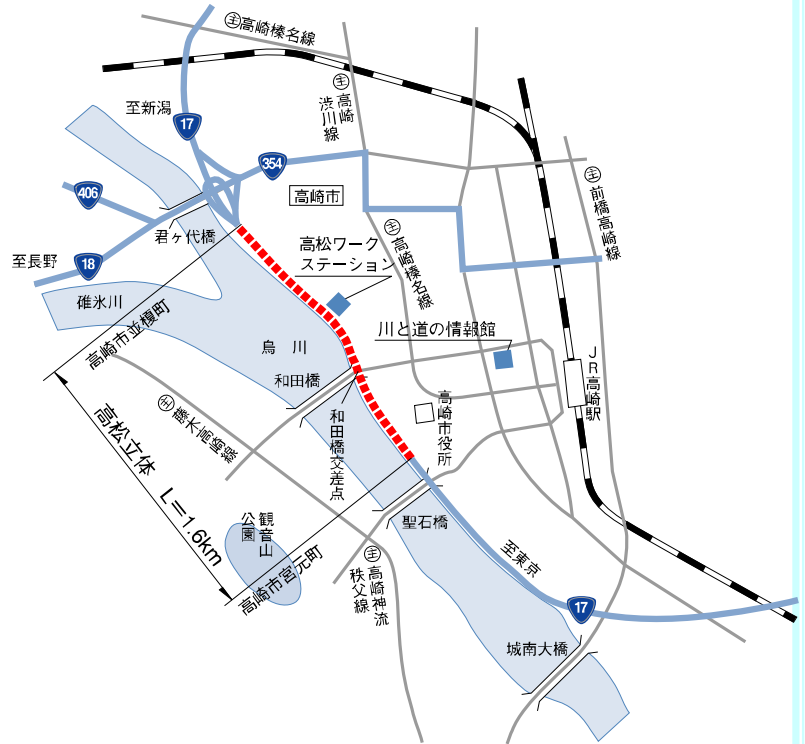
## その他の渋滞対策に向けた取り組み②

### ■国道17号高松立体

区間	自:高崎市宮元町 至:高崎市常盤町
延長	1.6km
区分	第3種第1級
設計速度	80km/h
都市計画決定	平成12年4月

- ・高松立体は、県内ワーストの最大渋滞長である和田橋交差点の渋滞対策として、一般国道17号と(主)藤木高崎線とを立体化する計画であり、交差点の慢性的な渋滞の解消を図ると共に、河川整備及び烏川緑地整備と一体的に整備を進めています。
- ・平成17年度は、切回し道路を供用させ、立体部の本体工事を進める予定です。また、拡幅部の用地買収を進める予定です。

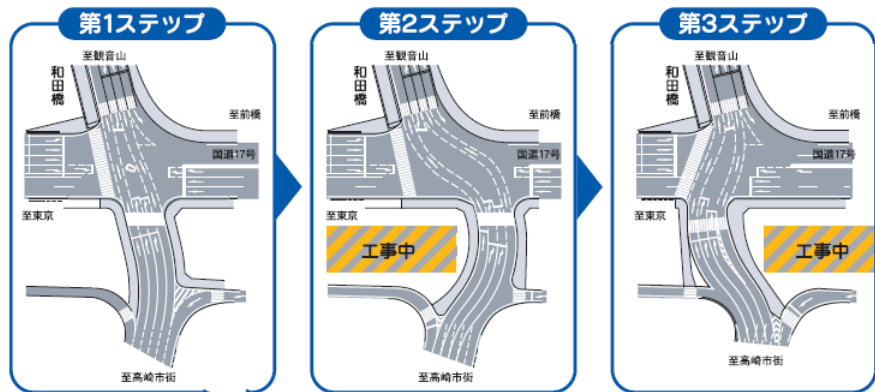
#### 【整備状況】



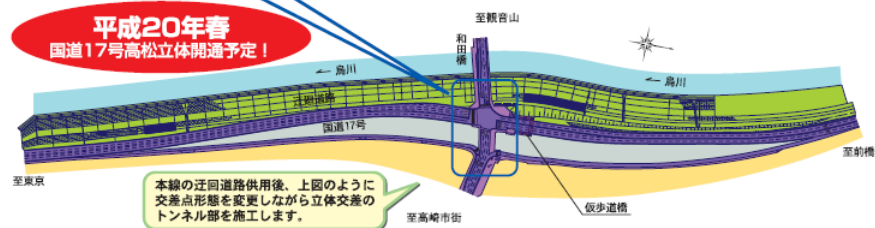
### 【高松立体切り回し道路】 ～ 平成17年度供用予定 ～

迂回の道路延長	1,100m
道路幅員	16.0m
車線数	4車線
区間	高崎市宮元町～高崎市常盤町

- ・平成17年度は立体交差化工事を行うために現在の交通を切り回し道路に切り換えます。切り換え後は、和田橋交差点を立体化するため、一般国道17号の本線部の地下化(函渠)、擁壁等の本体工事に着手します。
- ・平成20年春に立体交差部の供用をめざします。



※予定時期は天候等による工事工程により変更することがあります



**平成20年春**  
国道17号高松立体開通予定!

本線の迂回道路供用後、上図のように交差点形態を変更しながら立体交差のトンネル部を施工します。

環境を保全し、豊かな生活を支援する道路整備

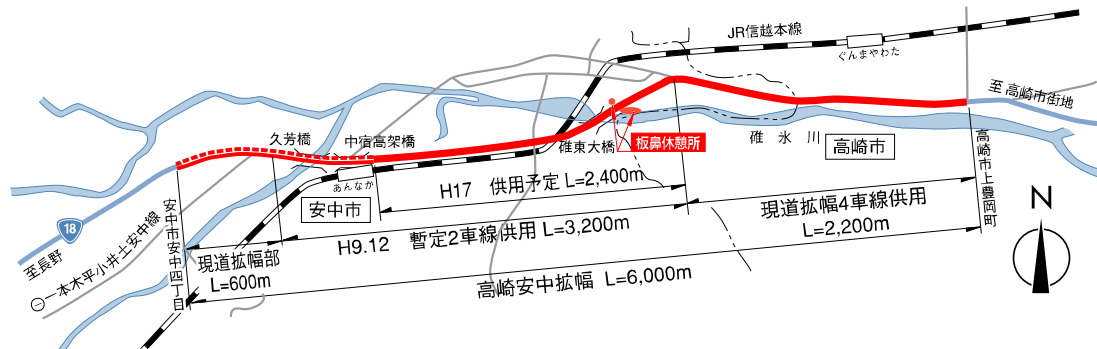
## その他の渋滞対策に向けた取り組み③

### ■国道18号高崎安中拡幅

区間	自:高崎市上豊岡町 至:安中市安中四丁目
延長	6.0km
区分	第3種第1級
設計速度	80km/h
都市計画決定	昭和59年5月

・高崎安中拡幅は、高崎市から安中市にかけての交通渋滞を緩和し、道路交通の安全を確保することを目的として計画された、延長6kmのバイパス並びに現道の拡幅事業です。昭和58年度に事業着手し、現道拡幅部については、平成7年度に2.0kmの4車線供用を行いました。バイパス部は、平成4年度より工事着手し、平成9年12月に現道拡幅部の200mとバイパス部の3.4kmが2/4車線供用をしました。また、平成12年3月には碓東大橋橋詰の板鼻休憩所を供用しています。

・平成17年度も引き続き改良工事を推進し、延長2.4kmについて4車線供用する予定です。



### ■国道122号昭和橋

区間	自:明和町川 至:埼玉県羽生市上新郷
延長	1.3km(橋梁656m)
区分	第3種第2級(4車線)
設計速度	60km/h

・国道122号は関東内陸部と首都圏を結ぶ重要な幹線道路ですが、このうち群馬県と埼玉県境の利根川に架かる昭和橋付近は慢性的な交通渋滞が発生しており、これを解消するために昭和橋を含む1.3kmの4車線化整備を行います。

・平成16年度まで用地取得率50%、工事進捗率44%となっています。平成17年度は用地買収、橋梁工、取付道路工を進めます。



【整備状況】



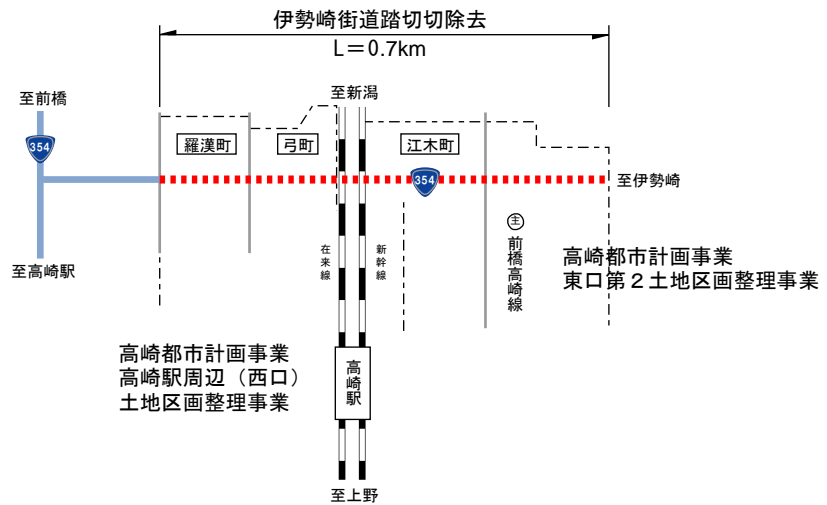
## その他の渋滞対策に向けた取り組み④

### ■国道354号伊勢崎街道踏切除却

区間	自:高崎市弓町 至:高崎市江木町
延長	0.7km
幅員	12.0(28.0)m
区分	第4種第2級(4車線)
設計速度	40km/h

- ・JR上越線等と平面交差する国道354号伊勢崎街道踏切は、1日の遮断時間が13時間にも及び、高崎市街地の交通に重大な影響を与えています。このため、アンダーパス方式による立体交差化事業に取り組んでいます。
- ・平成16年度まで用地取得率88%、工事進捗率60%となっています。平成17年度は、用地買収、交差点ボックスカルバート、アプローチ部掘削工を進めます。

【整備前の状況】



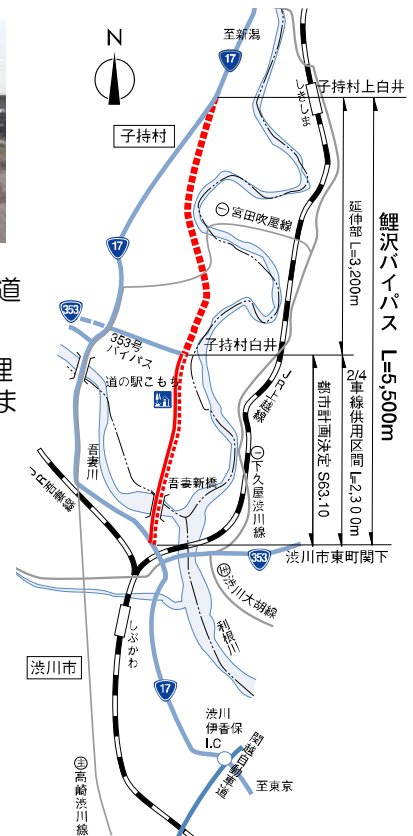
### ■国道353号鯉沢バイパス

区間	自:子持村白井 至:子持村北牧
延長	2.2km
幅員	6.5(14.0)m
区分	第3種第2級(2車線)
設計速度	60km/h



- ・鯉沢バイパスは、渋川市内と子持村内の国道17号及び国道353号の現道における交通渋滞の緩和を図るため、計画されたバイパスです。
- ・平成8年度に0.8kmが部分供用しており、平成16年度は、用地買収、埋蔵文化財調査を実施し、用地取得率98%、工事進捗率82%となっています。平成17年度は、用地買収、埋蔵文化財調査改良工事を進めます。

【整備状況】



環境を保全し、豊かな生活を支援する道路整備

# 7. 自転車走行空間の確保



## サイクリングロード整備率[%]

サイクリングロード整備率を向上させ、平成18年度までに「サイクリングロードネットワーク計画」の完成をめざします。

平成16年度現況値：1,496.2kmのうち818.7km整備/サイクリングロード整備率54.7%

平成17年度目標値：平成18年度の「サイクリングロードネットワーク計画」完成に向けて事業を継続

### 課題

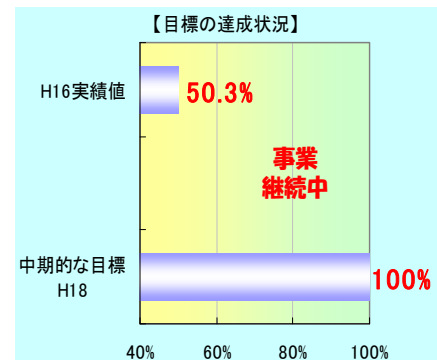
- ・1世帯あたりの自動車保有台数が全国上位に位置する群馬県では、近年の地球環境問題への対応や県民の健康づくりの推進などから、「自転車王国ぐんま」の実現に向けて、自転車が利用しやすい道路環境の整備などを推進しています。
- ・段差や急勾配、自転車と歩行者が分離されていない歩道、自転車駐車場の未整備など、自転車の利用しにくい環境が多く残されており、安全で快適な自転車走行環境を実現することが課題となっています。

### 業績計画

- ・「自転車王国ぐんま」の実現を目指して「サイクリングロードネットワーク計画」を策定し、段差や急勾配の解消などバリアフリー化、路面のカラー化などによる自転車と歩行者の分離、自転車駐車場や自転車歩行者専用道路の整備などを進めています。
- ・「サイクリングネットワーク計画」では、平成18年度までに約1,500kmのサイクリングロード整備に向けて、未整備区間約680kmの自転車利用者の走行環境改善に向けた事業に取り組みます。

#### ○平成17年度実施予定の主な事業

路線名	箇所	工事概要
(主) 藤岡大胡線	前橋市小島田町	歩道再整備カラー化
(主) 前橋安中富岡線	高崎市沖町	歩道再整備カラー化
(一) 持柏木寄居線	北橋村大字下南室	歩道改良及びカラー化
(一) 高崎伊勢崎自転車道線	藤岡市立石外	安全施設補修
(一) 秋畑富岡線	富岡市一ノ宮	歩道再整備カラー化
(主) 富岡神流線	富岡市内匠	歩道再整備カラー化
(主) 富岡妙義線	富岡市宇田	歩道再整備カラー化
(国) 254号	富岡市田篠	歩道再整備カラー化
(一) 松井田中野谷安中線	松井田町二軒在家～松井田	歩道再整備カラー化
(国) 462号 外	伊勢崎市八斗島町 外	木製案内標識設置



環境を保全し、豊かな生活を支援する道路整備

#### 【自転車の利用しにくい道路環境】



カラー舗装により、  
自転車通行帯を明示

#### 【安全で快適な自転車走行環境】



カラー舗装により、  
自転車通行帯を明示



## 自転車利用の促進に向けた取り組み

- ・自動車利用が全国トップクラスの群馬県では、自転車利用を促進するため、平成12年度から「サイクリングロードネットワーク計画」を推進しています。国道、県道に限らず、市町村道、農道、林道や河川堤防上のサイクリングロードを連結して、いつでも気軽に自転車を利用できるような道路整備を進めています。この他、公共交通機関との連携を図るための自転車駐車場の整備や自転車利用者のための木製案内標識を設置し、よりよい自転車環境の創設を図っています。
- ・また、自転車に乗らない人たちに自転車に乗るきっかけづくりや自転車を楽しんでもらえるようなイベントの開催などを通じた自転車利用の促進に取り組んでいます。

## 【 ぐんま サイクリングフェア2005館林 】

開催日：平成17年5月7日(土)

会 場：館林市つつじが岡公園催物広場

催し物：サイクルスタンプラリー

①シティサイクリングコース

(チェックポイントで観光ガイドによる説明がある館林市内を巡るコース)

②館林七福神巡りコース

(分福茶釜で有名な茂林寺など館林の七福神をチェックポイントにした観光コース)

③館林美術館・多々良沼コース

(城沼から多々良沼までの往復コース)

エフエム群馬公開生放送

自転車積載可能タクシー展示

おもしろ自転車試乗



環境を保全し、豊かな生活を支援する道路整備

## 8. 産業・観光の振興



### 幹線交通30分乗り入れ圏域の拡大[%]

上信自動車道や北関東自動車道および高速道路インターチェンジへのアクセス道路の整備により、将来的には100%の達成をめざします。

平成16年度現況値：81.2%<sup>注)</sup>

平成17年度目標値：幹線交通30分乗り入れ圏域の拡大をめざし事業を継続

将来的な目標値：幹線交通30分乗り入れ圏域：100.0%

### 規格の高い道路の利用の向上[%]

北関東自動車道の全線供用により長距離を走行する交通を規格の高い道路に分担させ、高速道路と地域の幹線道路の適切な機能配分の実現を目指します。

平成16年度現況値：9.9%

平成17年度目標値：規格の高い道路の利用率向上をめざし事業を継続

将来的な目標値：大幅な向上

注) 当該指標は平成16年度業績計画書では78.7%と設定しているが、市町村合併による市町村数の増減の影響を受けることから、平成15年アウトカム・プラン策定時(平成15.4.1時点)の69市町村を基準として設定しています。

### 課題

- ・「幹線交通乗り入れ30分構想」として全ての市町村から新幹線駅または高速道路などのインターチェンジに30分以内で到達可能となる道路整備を進めています。
- ・現時点で到達が不可能な市町村は、新幹線駅や既存の高速道路へのアクセス道が十分に整備されていないことや上信自動車道および北関東自動車道が未整備であることが課題としてあげられます。

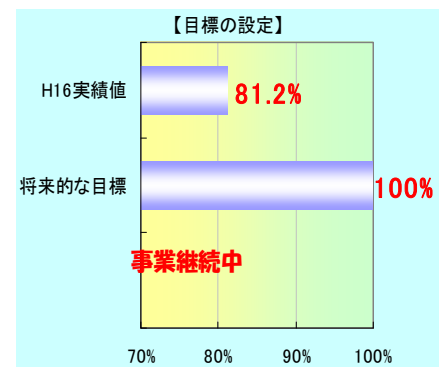
### 業績計画

- ・上信自動車道や北関東自動車道および高速道路ICのアクセス道路の整備により、将来的には100%の達成を目指します。
- ・平成17年度は、平成16年度に引き続き、北関東自動車道、上信自動車道、国道120号椎坂バイパス、(主)前橋長瀬線、(一)大原境三ツ木線などの事業を進めます。

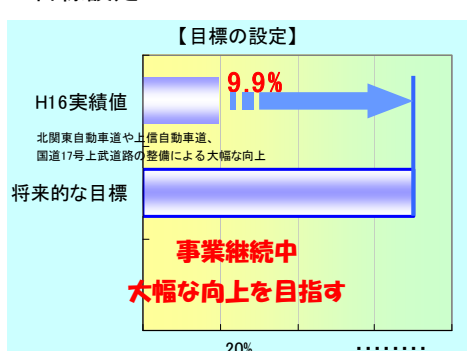
#### ○平成17年度に実施予定の主な道路事業

道路名	事業の内容	「幹線交通乗り入れ30分構想」が新たに達成可能となる市町村
北関東自動車道	伊勢崎IC以東への延伸	桐生市、太田市、大泉町 (→北関東自動車道(仮)太田IC)
上信自動車道	全線供用	吾妻町、長野原町、嬭恋村、草津町、六合村 (→上信自動車道)
国道120号	椎坂バイパス整備 (利根村～白沢村)	片品村 (→関越自動車道、沼田IC)
(主)前橋長瀬線	バイパス整備(藤岡市)	神流町 (→上信越自動車道、藤岡IC)
(主)下仁田上野線 (ふるさと林道湯の沢線)	バイパス整備 (南牧村～上野村)	上野村 (→上信越自動車道、下仁田IC)
(一)大原境三ツ木線	バイパス整備 (藪塚本町)	東村、黒保根村 (→北関東自動車道(仮)藪塚IC)

#### ○幹線交通30分乗り入れ圏域の拡大の目標設定



#### ○規格の高い道路の利用の向上の目標設定



地域の自立と個性を守る道路整備

## 産業・観光の振興に向けた取り組み

### ■国道120号椎坂バイパス

区間	自:沼田市利根町大原 至:沼田市白沢町生枝
延長	4.1km
幅員	6.5(10.25)m
区分	第3種第2級(2車線)
設計速度	50km/h

- ・国道120号の椎坂峠は、山道特有の急カーブが連続し、特に冬期は積雪や凍結のため難所とされてきました。これらの解消を目的として、椎坂トンネルを含むバイパスを整備することにより、片品村が関越自動車道のICまで30分程度で到達することが可能となります。
- ・平成16年度まで用地取得率0%、工事進捗率4%となっています。平成17年度は、設計、調査、用地買収を進めます。



地域の自立と個性を守る道路整備

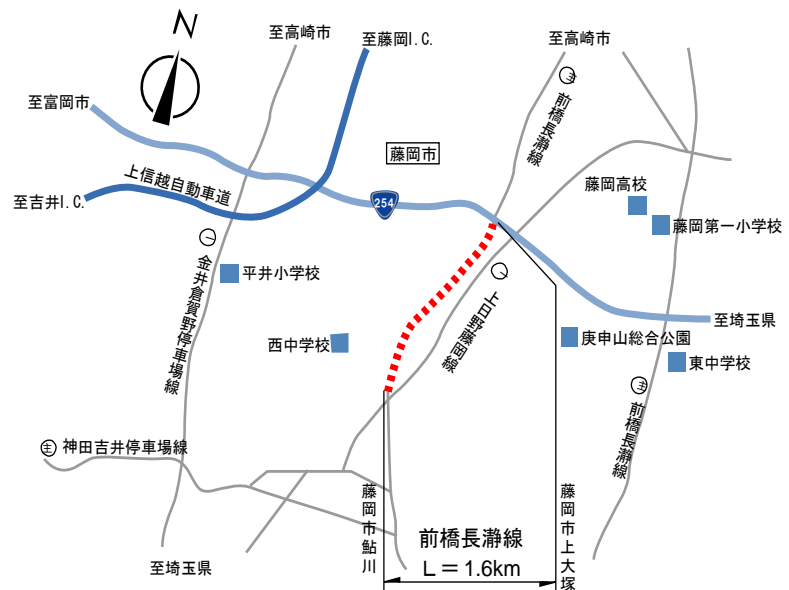
### ■(主)前橋長瀬線

区間	自:藤岡鮎川 至:藤岡市上大塚(2期工区)
延長	1.6km
幅員	13.5(25.0)m
区分	第3種第2級 (4車線、暫定2車線)
設計速度	60km/h

- ・(主)前橋長瀬線は、前橋市から高崎市、藤岡市等を経由して埼玉県長瀬町に至る都市間連絡道路ですが、近年、藤岡市街地において慢性的な交通渋滞が発生しています。藤岡市内でバイパスを整備して渋滞の解消と交通の円滑化を図ることにより、神流町が上信越自動車道のICまで30分程度で到達することが可能となります。

- ・平成16年度まで用地取得率87%、工事進捗率19%となっています。平成17年度は、用地買収、改良、設計、埋文調査などを進めます。

#### 【前橋長瀬線の旧道】



## 産業・観光の振興に向けた取り組み

### ■ (一) 大原境三ツ木線

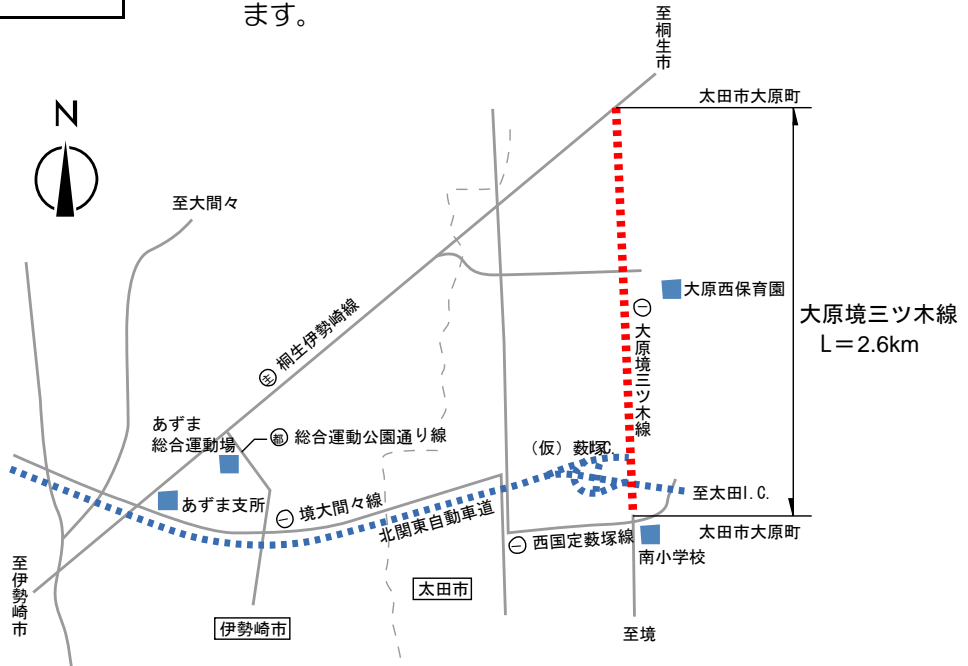
箇所	太田市大原町
延長	2.6km
幅員	13.0(35.0)m
区分	第3種第2級(暫定2車線)
設計速度	50km/h

・平成16年度は用地取得率86%となっています。平成17年度は、用地取得、改良工事、舗装工事を進めます。

#### 【整備状況】



・事業箇所は、北関東自動車道藪塚IC(仮称)のアクセス道路として、藪塚ICの南側交差点から(主)桐生伊勢崎線までのL=2.6kmを整備するものです。整備後はICのアクセス道路として機能し、東村および黒保根村が北関東自動車道のICまで30分程度で到達することが可能となります。



地域の自立と個性を守る道路整備

### ■ (主) 下仁田上野線 (ふるさと林道湯の沢線)

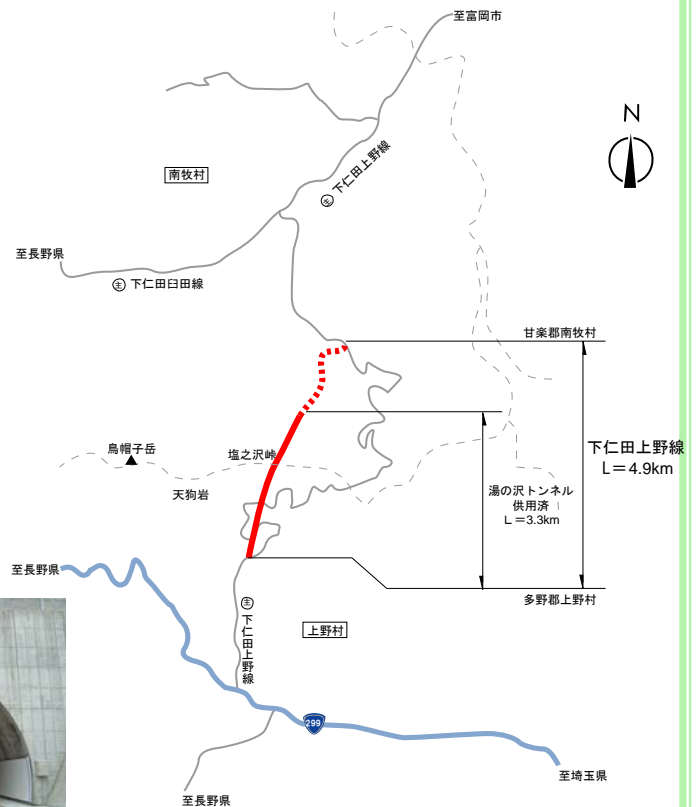
区間	自:南牧村大字絵沢 至:上野村大字楢原
延長	4.9km(トンネル部3.3km)
幅員	8.0m(トンネル部7.5m)
区分	第3種第4級(4車線)
設計速度	40km/h

・下仁田上野線は、中山間地域の活性化を図るため、平成7年度より事業着手し、平成16年3月に湯の沢トンネルが供用しました。南牧村側のトンネル部以外は工事用道路を利用して暫定供用しました。平成18年度の供用をめざして事業を進めます。

#### 【整備状況】



【湯の沢トンネル】



## 産業・観光の振興に向けた取り組み

### ■上信自動車道

・上信自動車道は、渋川市の関越自動車道・渋川伊香保IC付近から東村、吾妻町、長野原町、嬬恋村を経由して長野県東御市付近に至る延長約80kmの地域高規格道路であり、本道路の整備により、吾妻町、長野原町、嬬恋村、草津町、六合村は「幹線交通乗り入れ30分構想」の達成が可能となります。



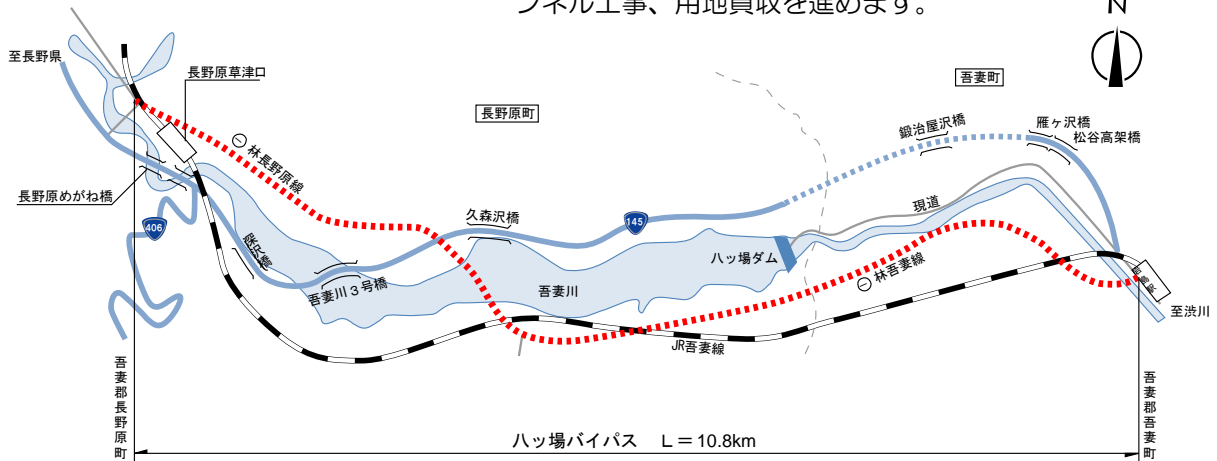
### ■国道145号ハツ場バイパス

区間	自:長野原町長野原 至:吾妻町松谷
延長	10.8km
幅員	14.0(25.0)m
区分	第3種第1級(4車線)
設計速度	80km/h(一部区間60km/h)

・ハツ場バイパスは、ハツ場ダム建設に伴う一般国道145号の付け替え区間として、ダム事業と協調しながら整備を進めています。

・ハツ場バイパスは、広域的な地域の連携と交流により吾妻地域の振興のために大きな役割を果たす上信自動車道(地域高規格道路)の一部になっています。

・平成16年度まで用地取得率39%、工事進捗率37%となっています。平成17年度は、本体改良、橋梁工事、トンネル工事、用地買収を進めます。



#### 【整備状況】

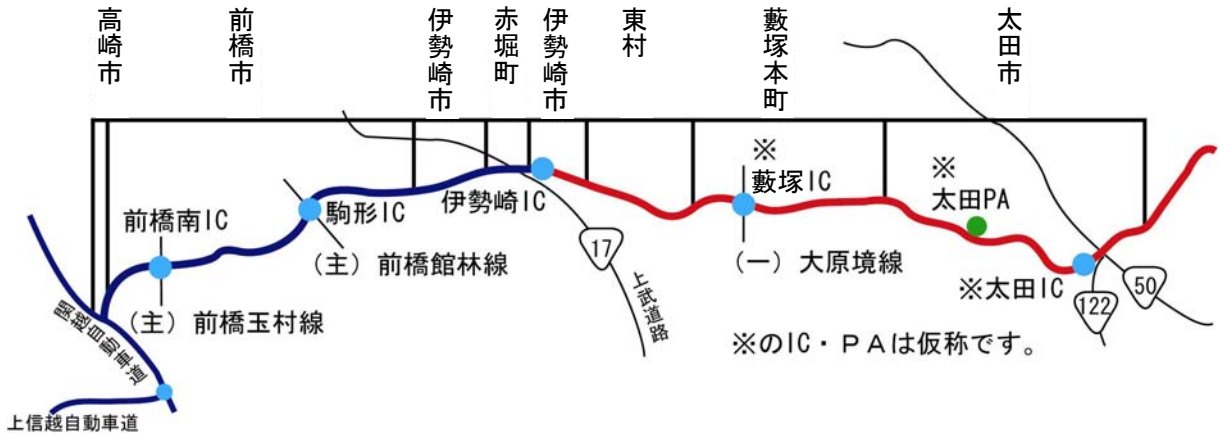


地域の自立と個性を守る道路整備

### 産業・観光の振興に向けた取り組み

#### ■北関東自動車道

・北関東自動車道（群馬県区間）の全線開通に向けて積極的に取り組み、群馬県内の高速道路十字軸の完成により、高速道路の利用価値を高めることを目指します。北関東自動車道により沿線地域における規格の高い道路の利用率が大幅に向上し、道路の適切な機能の配分の実現が期待されます。



【北関東自動車道伊勢崎IC付近】



【藪塚町付近】



【工事中の藪塚橋】



【工事中の東高架橋】



地域の自立と個性を守る道路整備

# 9. 情報の公開

## ホームページアクセス数[件/年]

国土交通省高崎河川国道事務所と群馬県道路関係課（県土整備局道路企画管理課、道路整備課）のホームページのアクセス数を平成16年度よりも2割増加の約60万件/年とすることをめざします。

平成16年度現況値：507,423件/年

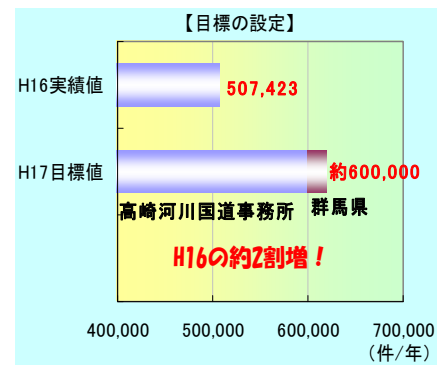
平成16年度目標値：約600,000件/年（前年度の2割増加）

### 課題

- 平成16年は、国道データマップによる情報提供をPCサイト、携帯サイト同時に開始するなど更なる情報提供に取り組んだ結果、平成15年度実績は前年度比20倍と全事務所の中で最もアクセス数を増加させており、前年度の反動が懸念される中でも、平成16年度のアクセス数は前年度比3.4倍でした。
- 全事務所における順位は、アクセス数は全国9位、伸び率も全国10位と高い水準で推移しており、今後も、県民の皆様ならびに群馬県の道路利用者のニーズに応えた情報を提供していくことが重要です。

### 業績計画

- これまで、ライブカメラ映像やバスロケ情報の提供等でアクセス件数を増加させてきており、特に携帯サイトへは相当数のアクセスを得ています。
- 高崎河川国道事務所ではトップページをリニューアルし、群馬県民ならびに群馬県の道路利用者のニーズに的確に応える情報提供に努めます。
- 平成17年は、平成16年度よりも2割増加で、約60万件/年をめざします。



【群馬県県土整備局ポータルサイト】



- 群馬県では、平成17年1月より、県土整備局のポータルサイトを開設し、県民の皆様ならびに群馬県の道路利用者に対して、県内情報のアクセスを容易にし、さらに分かりやすい情報提供に努めています。

【携帯電話による高崎河川国道事務所のホームページの利用イメージ】



【高崎河川国道事務所のホームページ】



- 高崎河川国道事務所では、トップページをリニューアルし、アクセス数の多いページについてはバナー広告にしたり、ラジオ「知っとく！かわみちサイト」などを通じて「お役立ち情報」を積極的に広報するなどの取り組みを行います。